

日本建築家協会東海支部が主催する「建築設計競技」は、最も伝統ある事業のひとつとして 1984 年に第 1 回が開催され、2018 年で 35 回目を数えます。

今日、社会はあらゆる局面における情報化の進展に伴い加速的に変化し続けています。2011 年に発生した東日本大震災は人々の社会に対する意識・行動に顕著な変化をもたらしました。また格差、貧困問題等の広がり、生きづらい社会をつくりつつもあります。

この設計競技は、このような複雑かつ不安定な社会において住まう空間の多様なあり方と可能性を問うものです。

第 35 回 課題

## ＜帝国＞と向きあうわたしの住まい

21 世紀に入ったあたりから、都市部にはかつてなかった巨大なビル群が建ち並び始めます。郊外では、空き家だらけの住宅事情の中にあってもなお、住宅はあつという間の早さで建ちあがり大量に供給されていきます。

その動きに並走するかのよう、改正省エネ法(\*1)や、種子法廃止(\*2)など生活に密着した重要な法案も、さほど議論もされないまま次々に決められていきます。

それらは共同体からも、民主主義的論理からも、あるいは技術的進歩からも説明のつかないチカラで後押しされているようにみえます。そのチカラの源は現代の＜帝国＞(\*3)のルールとも呼ぶべきものかもしれません。

では、建設現場はどうでしょう。住まいにとって重要な、浴室や台所といった水廻り、窓や建具といった部分は、それらがそもそもどういった役わりや意味を持っているかには無頓着なまま、数値的優位性や施工の簡便性のみを謳い、パッケージ化された形で供給されていきます。その一方で、それまで地域の住宅建設を担っていた小規模工務店は力を失い、頑固な職人は居場所がなくなりつつあります。そして、準備されたパッケージをこだわりなく使いこなす従順な職人が重宝されるようになりました。

私たちそれぞれの暮らしの中にあっても、落ち葉焚きのようなささやかながら融通無碍であった日常も姿を消しました。

こうした個々の事象もまた＜帝国＞と無縁ではなさそうです。

どうやら＜帝国＞は私たちの日常の隅々まで入り込んでいるようです。と同時に私たち一人一人は既に＜帝国＞の住人でもあるのです。無理に抵抗しようとする、なんとも自家中毒に陥りそうな状況のなかで私たちは生きています。



<帝国>が民主的、平和的ルールの中かで存在するのであれば、その潮流に乗って口笛を吹いて生きて行くことは可能でしょうか？事態はそれほど楽観的ではないように思われます。<帝国>は、私たち個々を分断し階層序列化し協働を事前に阻止する仕組みを内包しています。

<帝国>で暮らしていく私たちにはどういった振る舞いが可能なのでしょうか？ここではその住まいについて共に考えてみたいと思います。

かたちに過剰な期待をして概念的な空間操作に終始する、あるいはアイデアを滑走させるだけでは、その潮流を突き抜けて、その先に新たな可能性は見出せそうにありません。

どこで、だれと、何を使って、何に思いを馳せながら、どんなタイムスパンで、何を実現するために、どういったアプローチで、といったかたちを成立させるための背景を再構築する中で、改めて住まうということを掘り下げていく必要があるのかもしれない。

文：佐々木 敏彦（審査員長）

### (\*1)改正省エネ法(建築物省エネ法)

温暖化ガス対策としての目標値を各部門に割り振り法律として政策介入するもの。建設分野においては建築物省エネ法となる。数年後をめどに、小規模な住宅にも導入され、人々の暮らしが政策干渉されることになる。日本全体の温暖化ガス排出量に占める住宅建築要因の比率は極めて小さいというデータがあるにもかかわらず、長い歴史の中で蓄積されてきたすまいの文化・知恵(たとえば風土に立脚した夏涼しく冬温かいといった建築的工夫や、土間や縁側といった近隣に開かれていた重要な場所はエネルギー措置が著しく不十分なつくりということになり容認されなくなる可能性大)といったものはエネルギーのみの視点で切り捨てられる。要は魔法瓶のような外部から遮断された高气密高断熱住宅をつくるべしという法律。また多様で各々独自の住まいがつけられると、当然それをチェックするための行政コストも膨大になるため、結果として大企業に拠る建物一棟丸ごとのパッケージ化が進むことになると予想される。

### (\*2)種子法廃止

戦後の日本で、コメや大豆、麦などの種子の安定供給を国の責任で支えてきた法律。この法律が突如廃止(2018年4月)された。国は「国が管理する仕組みが民間の品種開発意欲を阻害しているから」と説明しているが、結果として公共の資産であった遺伝資源が企業に囲い込まれ、民間多国籍企業による種子の私有化が進むことが懸念されている。

(\*3)政治運動家で哲学者のアントニオ・ネグリとマイケル・ハートは、<帝国>を以下のように説明している。

- ・経済のグローバル化とIT化を基礎とした「超国家的な組織体」や「ネットワーク的権力」で、物質のみならず民衆の精神生活まで、まるごとの支配をする「グローバルな主権」のこと。
- ・それはかつての国民国家の枠組みで捉えた<帝国主義>とは違い、<帝国>には中心がなく、領土的概念もない支配装置である。
- ・<帝国>的管理は私たち個々を分断し、差異を階層序列化し、協働をあらかじめ阻止する機能を内包している。
- ・厄介なことに、それは表面的には民主的、平和的ルールを装っている。

## 【募集要項】

### 1. 表現方法

#### ①プレゼンシート（要求図面）

- ・用紙の大きさはA2判（420mm×594mm）とする。  
着色など、表現上の制約はない。各自の提案内容に沿って自由に提案すること。  
汎用紙を使用し、パネルなど巻けないものは不可とする。
- ・模型などは受付ない。

②用紙は、縦使い、または横使いとし、1枚（片面）にまとめること。

③プレゼンシートには、氏名や暗号等目印となるものは記入しないこと。

#### ④プレゼンシートのデータ提出は、PDF形式及びJPG形式（高解像度）とする。

- ・データの保存名称には、作品名を記すこと。
- ・データはUSBメモリまたはCD-Rで提出のこと。
- ・ケースまたは盤面に作品タイトル、氏名を明記すること。

#### ⑤提案内容について

- ・計画地、計画面積、家族形態、生活様式等の制限はありません。
- ・独立住宅、集合住宅、その他の居住形態の制限はありません。

### 2. 応募資格

応募資格についての制限はありません。

### 3. 応募方法

専用の申込用紙に必要事項を記入の上、プレゼンシートとデータ（PDF形式及びJPG形式高解像度）とともに設計競技事務局に提出すること。

プレゼンシートは、折ったり丸めたりしないこと。

申込用紙は、プレゼンシートに貼り付けない。

（申込用紙はJIA 東海支部・設計競技 Web サイトよりダウンロードできます）

### 4. 応募締切

10月19日（金）当日消印有効。

### 5. 提出先

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄四丁目3の2 6 昭和ビル5階

（公社）日本建築家協会東海支部内 設計競技事務局 TEL：052-263-4636

## 6. 審査委員（順不同・敬称略）

審査員長	佐々木 敏彦	（大久手計画工房）
ゲスト審査員	家成 俊勝	（京都造形芸術大学／dot architects）
審査員	黒野 有一郎	（建築クロノ）
	駒井 貞治	（名古屋芸術大学／駒井貞治の事務所）
	布村 葉子	（大建 met）
	森本 雅史	（森本建築事務所）

## 7. 審査・入賞者発表

### ①審査方法

1次審査会で、入賞者（金賞候補1名、銀賞候補2名、銅賞候補3名、奨励賞 若干名（学部生・高校・高専含））、ゲスト審査員特別賞1名を選出します。

上位6名（金賞候補1名、銀賞候補2名、銅賞候補3名）が2次公開審査会に進み、奨励賞若干名、ゲスト審査員特別賞1名は表彰式への参加となります。

2次公開審査会のプレゼンはパワーポイントで行うこととします。

### ②1次審査会

日時：2018年10月27日（土）

会場：TOTO テクニカルセンター名古屋 プレゼンルーム1・2

住所：愛知県名古屋市中村区名駅3-28-12 大名古屋ビルヂング12F

1次審査通過者には11月上旬に通知

### ③2次公開審査会・表彰式・作品展示・記念講演会

日時：2018年12月8日（土）

会場：TOTO テクニカルセンター名古屋 プレゼンルーム1・2

住所：愛知県名古屋市中村区名駅3-28-12 大名古屋ビルヂング12F

会場・その他 詳細については11月上旬にWebサイトにて公表

## 8. 表彰

### ①表彰

・金賞	1点	賞状、商品券 10万円、記念品
・銀賞	2点	賞状、商品券 5万円、記念品
・銅賞	3点	賞状、商品券 3万円、記念品
・奨励賞（学部生・高校・高専対象）	若干名	賞状、商品券 1万円、記念品
・ゲスト審査員特別賞	1点	賞状、商品券 3万円、記念品

### ②発表

12月中旬頃 Web サイトにて公開します。

入賞者には主催者から直接連絡致します。

入賞者の発表は、主催団体のホームページ及び会誌で発表予定。



## 9. 著作権

表彰作品の著作権は入賞者に属する。但し、主催団体がこの事業の趣旨にもとづいて、入賞作品を会誌・ホームページに掲載、図書出版または展示のために用いる場合、入賞者はこの使用を無償で認めるものとする。

## 10. その他

① 質疑応答は行わない。

② 入賞作品及び最終選考に残った作品以外の作品で返却希望者には、審査結果発表後2週間以内であれば返却する。但し郵送はしない。

③ 過去入賞作品の公開

設計競技 Web 上で 第 21 回～第 34 回までの入賞作品を公開しています。

URL <http://www.jia-tokai.org/competition/top.htm>

④ 「2 次公開審査会・表彰式・作品展示・記念講演会」のご案内

日時：2018 年 12 月 8 日（土）

会場：TOTO テクニカルセンター名古屋 プレゼンルーム 1・2

住所：愛知県名古屋市中村区名駅 3-28-12 大名古屋ビルヂング 12F

スケジュール（予定）

作品展示	12：00～17：30
プレゼン（6名）	12：30～14：10
休憩	14：10～14：20
公開審査	14：20～15：00
学生賞・ゲスト審査員賞講評	15：00～15：40
表彰式	15：40～15：50
休憩	15：50～16：00
記念講演会	16：00～17：00

定員：100 名（先着順）

⑤講師：家成 俊勝

<プロフィール>

1974年兵庫県生まれ。

京都造形芸術大学准教授。

2004年、赤代武志とドットアーキテクトを設立。

アート、オルタナティブメディア、建築、地域研究、NPOなどが集まる  
コーポ北加賀屋を拠点に活動。

建築設計だけに留まらず、現場施工、アートプロジェクト、さまざまな企画にもかかわる。

代表作は Umaki Camp (2013、小豆島)、千鳥文化 (2017、大阪) など。

第15回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 (2016) にて、

審査員特別表彰を受賞 (日本館出展作家)。

⑥問い合わせ先

設計競技事務局

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄四丁目3の2 6 昭和ビル5階

(公社) 日本建築家協会東海支部内

TEL : 052-263-4636 FAX : 052-251-8495 URL <http://www.jia-tokai.org/>

主催：公益社団法人日本建築家協会東海支部 後援：一般社団法人日本建築学会東海支部

平成30年9月21日 追記

平成30年7月18日